

法政大学大学院  
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	キャリアデザイン学研究科 キャリアデザイン学専攻 修士課程《一般》	2026年度 春季
論述問題		

問1

《解答又は解答例》

論文形式の出題であるが、解答例に相当するものとして評価の観点及びその具体的内容を示す。それぞれの問いについて、質問内容の理解・構成・独自性・根拠の妥当性を多面的に捉えることを目的とする。理解力、論理性、独創性、説得力、総合評価の5つの観点から評価を行う。詳細な評価基準は以下の通りである。

①理解力

若者の早期離職を単なる忍耐不足といった個人要因だけでなく、日本型雇用制度の変化やキャリア教育の不十分さ、価値観の多様化といった社会的・構造的な背景として理解できているか。

②論理性

全体の文章を通して明確な筋道があり、雇用制度の変化、教育の課題、価値観の変化、今後の支援策という論理展開がなされているか。段落ごとの焦点が明確で、論理的整合性が保たれているか。

③独創性

自分なりの着想や現代的な課題点を盛り込めているか。例えば、転職や副業の肯定的意義、リスキングや越境学習といった新たな働き方の可能性を具体的に提示されているか。

④説得力

社会制度や経済状況、教育現場や企業の実情などに即した根拠が示されているか。現実的な例や理論的背景が明示され、意見が抽象的でなく経験的・実証的に展開されているか。

⑤総合評価

理解力・論理性・独創性・説得力の各観点がバランスよく、全体として一貫性のある構成になっているか。社会構造と個人意識の双方に目を向け、現代のキャリア支援の方向性を的確に論じているか。

《出題の意図》

若年の早期離職をめぐるキャリア観の多様化についての理解、そして雇用政策、教育、企業の人材育成といった社会的背景を踏まえた論理的思考力や表現力を測る。

法政大学大学院  
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	キャリアデザイン学研究科 キャリアデザイン学専攻 修士課程《一般》	2026年度 春季
論述問題		

問2

《解答又は解答例》

論文形式の出題であるが、解答例に相当するものとして評価の観点及びその具体的内容を示す。それぞれの問いについて、質問内容の理解・構成・独自性・根拠の妥当性を多面的に捉えることを目的とする。理解力、論理性、独創性、説得力、総合評価の5つの観点から評価を行う。詳細な評価基準は以下の通りである。

①理解力

「効果検証」が求められる背景と意義を正確に理解し、行政・企業・教育・NPO等対象領域の特性を踏まえた上で論じられているか。測定すべき効果を適切に設定し、その理由を自らの関心領域に即して明確に説明できているか。

②論理性

設問1～3の流れ（①効果の特定 → ②課題・限界の分析 → ③現実的な検証方法の提案）が論理的に整合し、因果関係が明快に示されているか。課題や限界の指摘が抽象的でなく、具体的根拠に基づいており、提案内容が前段の分析を踏まえて一貫して展開されているか。

③独創性

一般的な「効果測定の難しさ」や「評価指標の欠如」といった指摘の域を超え、独自の着眼点や方法論的工夫が示されているか。たとえば、量的指標と質的データを用いた評価、それらを組み合わせた評価など、新たな視座を加えているか。

④説得力

理論的枠組みを踏まえつつ、実務現場に即した現実的な記述となっているか。適切な根拠・概念・データ等に基づいて主張が展開されているか。現場で実行可能な検証方策を提示し、「実現可能である」と感じさせる説明力を備えているか。

⑤総合評価

理解力・論理性・独創性・説得力の各観点を総合的に踏まえ、効果検証に関する理論的理解と実践的洞察を統合的に示せているか。自らの経験や関心領域に根ざしつつ、現実の制約を踏まえたうえで、理論的にも妥当性のある検証のあり方を論理的に構築できているか。

《出題の意図》

効果測定について考察して論じることにより、効果測定の実施に向けた立案に必要な能力・知識を測る。